

30日 金曜

伝道者の書



11:1 あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出す。
11:2 あなたの受ける分を七、八人に分けておけ。地上でどんなわざわいが起こるかをあなたは知らないのだから。
11:3 濃い雲が雨で満ちると、それは地上に降り注ぐ。木が南風や北風で倒れると、その木は倒れた場所にそのまま横たわる。
11:4 風を警戒している人は種を蒔かない。雨雲を見ている人は刈り入れをしない。
11:5 あなたは妊婦の胎内の骨々のことと同様に、風の道がどのようなものかを知らない。そのように、あなたは一切を行われる神のみわざを知らない。
11:6 朝にあなたの種を蒔け。夕方にも手を休めてはいけない。あなたは、あれかこれかどちらが成功するのか、あるいは両方とも同じようにうまくいくのかを知らないのだから。
11:7 光は心地よく、日を見ることは目に快い。
11:8 人は長い年月を生きるなら、ずっと楽しむがよい。だが、闇の日も多くあることを忘れてはならない。すべて、起こることは空しい。
11:9 若い男よ、若いうちに楽しめ。若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたは、自分の思う道を、また自分の目の見るとおりに歩め。しかし、神がこれらすべてのことにおいて、あなたをさばきに連れて行くことを知っておけ。
11:10 あなたの心から苛立ちを除け。あなたのからだから痛みを取り去れ。若さも青春も空しいからだ。

とにあるとはいえ、現実的にはその秩序が感じられない場合があります。秩序に沿って正しいことをしたのに、良い結果が得られないということもあるでしょう。しかし伝道者は、神は忘れたまわず報いを与えてくださるという意味で、期待を込めて「パンを水の上に投げよ」と勧めます。

また風などのように自然現象は人間のコントロールできるものではなく、その中であっても最善をつくすことを勧めています。さらに光のように自然は良いものであること、その自然の中に生きる人生は楽しむに値するものであることを述べています。

以上は次章の「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ」ということばにつながるものと考えられます。人のために生きるべきであること。自然の前の無力さ。しかしそれでも精一杯努力すべきこと。自然の恵み。そして人生の限り有ることなど。これを読む者に人生の秩序へ開眼と謙遜さを感じるように述べられています。

私たちがまたこのような思いを、主の前に持ち、限り有る人生を精一杯生きることによって、自分自身が人々への証となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

